

種生物学会ニュースレター

The Society for the Study of Species Biology Newsletter No. 57



選挙実施のお知らせ 1 / 第56回種生物学シンポジウム(岡山)のご案内 1
第57回種生物学シンポジウム(東京)の開催について 5 / 第55回種生物学シンポジウム(愛知)の記録 5 /
事務局からのお知らせ 7 / 会計報告 8

選挙実施のお知らせ

会則第21条、24条、31条、ならびに「選挙に関する規則」に従い、次期会長・副会長・地区幹事選挙(任期:2025年1月1日~2027年12月31日)が選挙管理委員会によって行われます。お手元に郵送される投票用紙を同封の返信用封筒で選挙管理委員会へお送りください。投票締め切りは【11月8日(金)必着】です。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

第56回種生物学シンポジウムのご案内 (オンサイト/オンラインハイブリッド・岡山)

<https://sites.google.com/view/sssb56okayama/>

第56回となる本年度の種生物学シンポジウムは、昨年度と同様にハイブリッド形式で行います。12月1日(日)にオンラインでのポスター発表、オンサイトでは合宿形式で12月6日(金)~8日(日)に開催したいと考えております。開催地は、岡山県総社市にあるサントピア岡山総社(岡山県総社市秦1215 <https://suntopia-okayama-soja.com/>)です。

今回の合宿形式でのシンポでは、研究交流の場として、2日目の懇親会に加えて1日目の夕食後にポスター会場にて交流会の場を設ける予定です。学会員の方は、本ニュースレターの案内に従って参加申し込みをしていただければ、どなたでもご参加およびポスター発表を行っていただけますので、夜遅くまでの議論をお楽しみください。

ポスター発表は、シンポジウム本体の1週間前の12月1日(日)にオンラインで開催し、その際、ポスターフラッシュを行う予定です。ポスター各賞は、オンラインでの発表をもとに決定されることとなりますが、対面での議論を深める研究交流の場として、オンサイトでもポスター会場を設けております。

オンサイト開催の大きな企画として、例年は和文誌編集委員会企画シンポジウムを実施していましたが、本年度は和文誌の企画を小休止する関係で、和文誌編集委員会企画のシンポジウムは「ミニシンポ」および来年度への準備としての「プレ和文誌シンポ」の2本立て(いずれも3日目)となります。「ミニシンポ」では既に研究成果を書籍として出版されている新進気鋭の植物学者のお二人に講演を依頼しました。食虫植物と従属栄養植物、どちらも非常に興味深くユニークな生態であり、「搾取」という共通項から、その進化や生活史を考える機会となることと思

申込締切は 11月1日(金)です

※ ポスター発表要旨登録締切は 11月8日(金)
※ 当日参加は受け付けませんので、ご注意ください

います。

初日12月6日(金)夕刻からは「基調講演」を、12月7日(土)には岡山大会実行委員会企画の「実行委員シンポ」を行います。これらの講演およびシンポジウムはオンライン配信も同時に行う予定です。また、オンサイト開催の総会・授賞式、片岡奨励賞受賞講演、PSB企画「種生物学会英文誌の目指す先」についてもオンライン配信を行う予定です。

「基調講演」では、倉敷市立自然史博物館の鐵慎太朗先生に「岡山県の植生と倉敷市立自然史博物館の標本庫について」、倉敷市立自然史博物館友の会の狩山俊悟先生に「岡山県の植物相と岡山県版レッドデータブックの改定」というタイトルで岡山の特色ある植物相をはじめ、研究と標本庫との関わりについてお話をしていただける予定です。岡山県での種生物学的研究や、植物標本32万点を擁する博物館の標本庫活用のきっかけになればと思います。

合宿形式で親密な交流を大前提としてきた種生物学シンポジウムですが、コロナ禍を経て得たオンライン開催のメリットも活かしながら、みなさまのとおきの研究を持ち寄り、種生物学会らしい白熱した議論に花を咲かせていただければと思います。みなさまどうぞ奮ってご参加いただきますよう、よろしくお願い致します。

● **開催方法** ※開催方法については今後、一部変更する可能性があります。

オンライン配信 (zoom) : ポスターフラッシュトーク、基調講演、総会・授賞式、受賞講演、実行委員シンポ、PSB 企画、ミニシンポ、プレ和文誌シンポ
オンライン配信 (LINC Biz) : ポスター発表 (ポスター賞の審査はこちらを基に行います)
オンサイト開催 : 各種委員会、基調講演、総会・授賞式、受賞講演、実行委員シンポ、PSB 企画、ミニシンポ、プレ和文誌シンポ、ポスター発表 (希望者のみ)

● **全体のスケジュール** ※変更になる場合があります。最新情報は参加者へメールでお知らせします。

12月1日(日) (オンライン開催・配信あり)

13:00-13:15 開会挨拶、全体説明 zoom
13:15-15:00 ポスターフラッシュトーク zoom
15:00-16:00 ポスター発表 (コアタイム) LINC Biz

12月6日(金) (オンサイト開催・基調講演のみオンライン配信あり)

13:00-17:00 各種委員会
16:30- 受付開始
18:00-19:00 夕食
19:00-20:30 基調講演
20:30- 交流会 (ポスター会場)

12月7日(土) (オンサイト開催・ポスター発表以外オンライン配信あり)

7:00- 9:00 朝食
9:30-10:15 ポスター発表 (コアタイム奇数)
10:15-11:30 ポスター発表 (コアタイム偶数)
12:00-13:00 昼食
13:00-14:30 総会・授賞式・写真撮影
15:00-16:00 片岡奨励賞受賞講演
16:30-18:30 実行委員シンポ「農学分野の最新技術を種生物学に活かせるか？」
19:00-21:00 懇親会
21:00-22:30 交流会

12月8日(日) (オンサイト開催・オンライン配信あり)

7:00- 9:00 朝食
9:00-10:00 PSB 企画「種生物学会英文誌の目指す先」
10:00-12:00 ミニシンポ「搾取する植物」
12:00-13:00 昼食
13:00-15:00 プレ和文誌シンポ「生態系の土台：土壌微生物の世界」

● **岡山大会実行委員会企画シンポジウム**

「農学分野の最新技術を種生物学に活かせるか？」

12月7日(土) 企画者：勝原光希 (岡山大学)、松本哲也 (茨城大学)、宮崎祐子 (岡山大学)

近年、農学分野では画期的な技術革新が次々と誕生している。これらの技術は、農作物の生産性向上や持続可能な農業の実現に貢献するだけでなく、生態・環境・進化といった分野を内包する種生物学研究の発展においても大きな可能性を秘めている。本シンポジウムでは、主に農学分野で活躍される専門家を招き、それぞれ最新の研究を紹介いただくことで、農学の進展が種生物学にどのような新たな知見をもたらすのか、それら最新技術の応用可能性や課題についての洞察を深めたい。

16:30-16:40 趣旨説明

- 16:40-17:10 「植物育種学研究における MIG-seq 法の利用と最適化」
西村和紗 (岡山大学)
- 17:10-17:40 「他者を咲かせる植物をつくる -接ぎ木による開花誘導技術の育種・採種への利用-」
元木航 (岡山大学)
- 17:40-18:10 「イチゴのポリネータ活動評価システム及びその利用方法の開発」
安場健一郎 (岡山大学)
- 18:10-18:30 総合討論

● 和文誌編集委員会企画ミニシンポジウム
「搾取する植物」

- 12月8日(日) 企画者: 村中智明 (名古屋大学)
- 10:00-10:50 「動物から搾取する植物、その進化を探る」
福島健児 (国立遺伝学研究所)
- 10:50-11:40 「光合成をやめた植物「従属栄養植物」の不思議な生活」
末次健司 (神戸大学)
- 11:40-12:00 総合討論

● 和文誌編集委員会企画プレ和文誌シンポジウム
「生態系の土台: 土壌微生物の世界」

12月8日(日) 企画者: 和文誌編集委員会

大規模シーケンスに代表される技術進歩により土壌中の微生物叢を高解像度で把握できるようになった。土壌微生物-植物フィードバックの実態も徐々に明らかとなり、その影響の大きさから土壌微生物はまさしく「生態系の土台」と考えられる。一方で、微生物叢の形成プロセスやフィードバックの詳細な分子機構などには、まだまだ謎が多い。そこで、今回の種生物シンポでは、和文誌企画として土壌微生物シンポの開催を計画している。今回はプレシンポとして、オーガナイザーをお願いする二人の研究者に研究を紹介いただく。マクロとミクロ、双方の研究者との議論により、土壌微生物から種生物学を考えたい。

- 13:00-13:50 「マクロな視点から菌類の多様性と機能を考える」
松岡俊将 (京都大学)
- 13:50-14:40 「ミクロな視点から《植物+微生物》の生き様を考える」
中野亮平 (北海道大学)
- 14:40-15:00 総合討論

● 参加・ポスター発表申し込み【11月1日(金)まで】

参加申し込みフォーム (<https://forms.gle/x712SHnDtdABetYk9>) からお申し込みください。

- 参加費は、オンサイト参加の場合、一般 10,000 円、学生 5,000 円 (非会員の方はそれぞれ 1,000 円 up) です。オンラインのみ参加の場合、一般 5,000 円、学生 2,500 円 (非会員の方はそれぞれ 1,000 円 up) です。オンサイト参加の場合には、懇親会費 6,000 円 (一般)、3000 円 (学生)、宿泊費 20,000 円 (2 泊朝食込み)、食事代 6,000 円 (昼・夜の合計 3 食分) が掛かります。
- 2 泊 3 日フル参加 (オンライン含む) では一般会員 42,000 円、学生会員 34,000 円になります。

- オンサイト会場のサントピア岡山総社への往復は、岡山駅から送迎バスが運行します。詳細については大会 HP を参照ください。
- 託児を利用される方は、参加申し込みフォームにてお申し込みください。
- 今回のシンポジウムは、非会員でも聴講いただけますが、ポスター発表は種生物学会員に限り受け付けます。
- ポスター発表を希望する方は、参加申し込みフォームで「ポスター発表を申し込む」にチェックをしてください。ポスター発表の申込者（発表者）は、2024 年度分の種生物学会会費を納入済の会員に限ります。
- 非会員の方でポスター発表を希望の方は、事前に種生物学会への入会をお済ませください。入会手続きは、種生物学会ホームページから行うことができます。ホームページの入会案内にしたがって、今年度分の会費（一般会員 6,000 円／学生会員 3,000 円）を 11 月 1 日（金）までにお振り込みください。会費の振り込みが確認できない場合は、発表申込みをキャンセルさせていただきます。
- ポスター発表が優れていた発表者には、「種生物学会ポスター賞」および「河野昭一ポスター賞」を授与しています。「河野昭一ポスター賞」は、発表者を学部学生および修士課程の大学院生に限定したポスター賞です。
- シンポジウムへのオンサイトでの参加は、申込締切以降は出来ませんが、オンラインでの聴講に限り締切後の登録も可能とする予定です。ただし、できるだけ締切までに参加登録をしていただけますようお願いいたします。

● **ポスター発表要旨の登録【11 月 8 日（金）まで】**

発表要旨は、参加申込フォームより申込を行った後、要旨登録フォーム (<https://forms.gle/y2Fm9NKRLGC4UtqC6>) から登録をお願いいたします。

● **ポスター発表について**

- LINC Biz のチャンネルが発表ブースとなります。LINC Biz にポスターを画像形式でアップロードし、チャットで質疑応答を行うことができます。ビデオ会議のプラットフォームは設けませんので、ご希望の方は各自でご準備ください。ポスターのダウンロードは出来ませんが、スクリーンショットを撮影される危険性は排除できません。なお、12 月 1 日（日）13:00 より、発表内容を PDF スライド 1 枚にまとめて 1 分で紹介する「フラッシュトーク」の時間を設けます。11 月 24 日（日）までにフラッシュトーク用 PDF スライドをご準備ください。後日、PDF ファイルのアップロード先をお知らせします。

● **要旨集について**

- 今年度は冊子体の要旨集を発行しません。参加者には、電子媒体の要旨集がダウンロードできる URL をご連絡します。

● **第 56 回種生物学シンポジウム実行委員会（五十音順）**

勝原光希（岡山大学）、松本哲也（茨城大学）、宮崎祐子（岡山大学）

問い合わせ先：sss2024okayama at gmail.com（at を@に置き換えて下さい）

第 57 回 種生物学シンポジウム開催について（予報）

第 57 回目となる 2025 年の種生物学シンポジウムは、2025 年 12 月 19 日（金）～21 日（日）に、東京都八王子市の大学セミナーハウスにて開催されます。例年とは異なり、開催時期は 12 月初旬ではありませんので、日程にご注意ください。八王子での開催は 2018 年以來、7 年ぶりとなります。開催方式やシンポジウムの詳細については、今後決定次第お知らせいたします。

第 55 回 種生物学シンポジウム（愛知）の記録 2023 年 11 月 25 日（土）ポスターセッション・オンライン 12 月 1 日（金）～3 日（日）オンサイト・オンライン開催

プレシンポジウム

星 博幸（愛知教育大学）地質の空間分布の多様性
芹沢 俊介（愛知教育大学名誉教授・愛知みどりの会）種生物学研究の基礎としての種分類
渡邊幹男（愛知教育大学）・田川一希（宮崎国際大学）愛知の湿地における食虫植物の生き残り戦略

片岡奨励賞受賞講演会

永濱 藍（国立科学博物館）東・東南アジアにおけるフェノロジーの多様性
望月 昂（東京大学）赤い花の誘惑：双翅目送粉者がもたらす多様な花の姿

和文誌編集委員会企画シンポジウム「古くて新しい島の生物学：島に生きる動植物の織りなす物語を読み解く」

企画者：渡邊謙太（沖縄高専）・阿部晴恵（新潟大学）・水澤玲子（福島大学）・安藤温子（国立環境研）・平岩将良（近畿大学）・丑丸敦史（神戸大学）
渡邊謙太（沖縄高専）・阿部晴恵（新潟大学）・水澤玲子（福島大学）・安藤温子（国立環境研）・平岩将良（近畿大学）・丑丸敦史（神戸大学）趣旨説明
古くて新しい島の生物学／島研究の実際
高山浩司（京都大学）海洋島固有植物の分岐による種分化と分岐によらない種分化
斎藤成也（国立遺伝学研究所）ヤポネシアゲノムプロジェクトの成果
中村剛（北海道大学）日本列島の植物地理
岸本年郎（ふじのくに地球環境史ミュージアム）小笠原西之島の噴火により失われた昆虫相と現在
栗山武夫（兵庫県立大学）島ごとに違う捕食者に適応したトカゲの防衛戦略
伊藤 舜（伊豆大島ジオパーク/東邦大学）陸産貝類の殻色による海洋島環境への適応進化
飯田碧（新潟大学）島の淡水性回遊魚の分散と生態：佐渡と沖縄の例から
澤田明（国立環境研究所）日本でを行う島の鳥類標識個体群の長期研究
総合討論

ポスター発表

穴澤颯太（筑波大院・生物）、Klaus Lunau（ハイน์リッヒ・ハイネ大学/ドイツ）花を集めれば遠くまで目立つ？：花密度に伴うハチの検出限界の変化
椋内一寿、藤岡美羽、新田梢（麻布大・環）キスゲとハマカンゾウの開花・閉花時刻における光の影響
大友悠雅、新田梢（麻布大・環）神奈川県境川流域のヤマエンゴサク・ジロボウエンゴサクの繁殖様式
小田中一浩（学芸大・生物）、星野佑介（学芸大・院・連合）、堂園いくみ（学芸大・環境）雌雄異株植物カラスウリの訪花昆虫と果実形成の集団間比較
中津颯希、長島凱斗、新田梢（麻布大・環）ニワゼキショウ属における新たな自然交雑植物の形態的特徴と遺伝子解析
*ポスター賞 松浦匠、中村駿介（信大院・総合理工）、中瀬悠太（京芸大）、市野隆雄（信大・理）共生アリによる捕食はクヌギクチナガオアブラムシの口吻長に対する選択圧となるか？
山口雄大（信大院・総合理工）、市野隆雄（信州大・理）アリ種子散布型植物オドリコソウの散布アリ種、および種子・エライオソーム形質の地理的変異
吉田涼香、倉田薫子（横国大・院・学環）、山本将也（兵庫教育大）海洋島に進出したコイワザクラにおける二型花柱性の崩壊とその遺伝的帰結
石井直浩（鳥取大・乾地研）、内田圭（東大・農）、佐藤光彦（かずさ DNA 研究所）、岩知道優樹（横国大・環境）東京大都市圏におけるキンラン属 3 種の遺伝的多様性・分化への都市化影響
近藤輝留（信大院・総合理工）、田路翼（日大・文理）、廣田峻（大阪公立大・植物園）、陶山佳久（東北大・農）、市野隆雄（信大・理）長野県安曇野市一山域で見られたキツリフネの生態型分化
前田夏樹、高橋耕一（信州大・理）上高地における標高傾度に応じたユモトマムシグサ近縁群の生態特性の変化
宇高光将、井口尚士、小笠原涼（都立大・理・生命）サトイモ科ツル植物の生育状態に応じた葉形態変化の解析
Anna Valchanova（Grad. Sch. of Science, Univ. of

Tokyo)、Satoshi Kakishima (Mt. Fuji Inst. for Nature and Biology, Showa Univ.)、Kanao Sekimoto (Grad. Sch. of Nanobioscience, Yokohama City Univ.)、Yudai Okuyama (Tsukuba Bot. Garden, Natl. Mus. of Nature and Science) Pollination Biology and Floral Scent Variation in *Asarum* sect. *Heterotropa*

岡田優奈、毛利早希、西脇亜也 (宮大・農) 絶滅危惧昆虫シルビアシジミの寄主植物選好性について
片渕茉優 (京大・農)、成田智史 (環境省)、小牧義輝 (東大・理・植物園)、永野惇 (龍谷大・農)、遊川知久 (国立科博・筑波実験植物園)、井鷲裕司 (京大・農) 母島固有種ホシツルラン *Calanthe hoshii* (ラン科) の遺伝的構造と多様性—保全への提言—

川澄光、川窪伸光 (岐阜大・応生) 樹木の枝葉の成長を阻害しているのは何か? 接触対象物の動き?
*河野昭一ポスター賞 小杉那緒 (弘前大・農生)、吉田健太郎 (京大院・農)、山尾僚 (京大・生態研) 血縁認識は品種改良によるパンコムギの収量増加を支えたか?

佐々木 陽依 (京大・理)、山尾 僚 (京大・生態研) 葉脈構造の進化は広葉樹に何をもたらしたか? — 光合成速度と葉の通水性の比較—

社川武徳、小川浩太 (九大)、金岡雅浩 (県立広島大)、佐竹暁子 (九大) マテバシイにおける花粉管伸長・胚珠発達フェノロジーから紐解く受精遅延の進化
*ポスター賞 砂川勇太、望月昂、川北篤 (東大・理・植物園) 微小なラン科植物ヨウラクランのタマバエによる送粉

田中歩 (筑波大・生物)、大橋一晴 (筑波大・生命環境系) 植物の三密戦略: 密集花序が多様な訪花昆虫による送受粉に及ぼす影響

南家楓子、井田崇 (奈良女・理) クサタチバナは稀な受粉成功に対してどのような資源投資戦略を持つのか

西澤空、望月昂、川北篤 (東大・理・植物園) 植物の花弁に見られる蛍光について

西村悠里、石崎智美 (新大・自然研) セイタカアワダチソウの匂いが海岸林構成樹種の食害に与える影響

濱田若夏子 (千葉大・院・融)、佐藤光彦 (かずさ DNA 研究所)、高橋佑磨 (千葉大・院・理) 花序形態の種内多様性と繁殖成功率: ネジバナにおける錯視を利用したディスプレイ効果

早瀬元晴、太田岬 (愛教大・生物)、芹沢俊介 (愛知みどりの会)、常木静河 (愛教大・生物) カワヂシャとヒラタアブ類に見られる共生系

松原かおる (岐阜大・自然)、川窪伸光 (岐阜大・応生) 雌雄ずい形態に対応した訪花昆虫の飛来着地行動

村山柊 (新潟大・理)、櫻井裕介 (新潟大・院・自然)、西川孝一 (新潟大・農)、塩尻かおり (龍谷大・農)、高林純示 (京都大・生態研センター)、石崎智美 (新潟大・理) トウモロコシにおける植物間コミュニ

ケーションの農業への利用可能性

毛利早希、岡田優奈、西脇亜也 (宮大・農) 絶滅危惧昆虫シルビアシジミの標識再捕獲法による個体数変動パターンの把握について

柳田千穂、川窪伸光 (岐阜大・応生) マンネングサ属の繁殖様式と開花形態

山口万里花 (都立大・牧野)、菊地波輝 (豊橋市自然史博物館)、吉田貴大 (都立大・牧野)、奥山雄大 (国立科学博物館筑波実験植物園)、村上哲明 (都立大・牧野) ネコノメソウ属イワボタン列と送粉者クチナガハバチ属の共生系の発見と集団間比較

山本倫正、山口寛登 (岡大・環境理工)、藤原日向、宮崎祐子 (岡大・院・環境)、中田泰地 (神戸大・院・発達)、中濱直之 (兵庫県大・兵庫県博)、中田和義、勝原光希 (岡大・院・環境) 岡山市の都市域—中山間地域における在来一年草ツユクサの集団遺伝学的解析と送粉者調査

横山碧、井田崇 (奈良女・生物) 複数の送粉者に対する雄蕊二型性の意義

吉田理見、成田陸人 (弘大院・農生)、山岸洋貴 (弘大・白神センター) 春植物エゾエンゴサク集団内における多様な葉形態の進化生態学的背景について

大坪雅、工藤洋、本庄三恵 (京大・生態研) ハクサンハタザオへのカブモザイクウイルス感染はアブラムシ防御を向上させる

*ポスター賞 柴田あかり (京大・生態/北大・地球環境)、清水華子、本庄三恵、工藤洋 (京大・生態) 花の天気依存的な上下運動のメカニズムと適応的意義

島田真彦、北村俊平 (石川県立大) サイハイランとギンリョウソウへのトラマルハナバチ女王の 1 花あたりの訪花回数比較

鈴木正樹、指村奈穂子 (日本自然環境専門学校) 新潟県佐渡島及び越後地方におけるナンブアザミ節の形態的多様性とその地理的パターン

孫櫻、笠澄望 (神戸大・農)、岡田萌子 (新潟大・自然科学)、吉田健太郎 (京大・農)、松岡由浩 (神戸大・農) 地中海東部地域に自生するイネ科植物 *Aegilops umbellulata* Zhuk. の系統地理学的研究

立松和晃 (内藤記念くすり博物館/岐大・連農)、土田浩治、岡本朋子 (岐大・連農) ツルニンジン *Codonopsis lanceolata* における花形質の多様性と送粉者

樽澤優芽子 (京大・農・院)、伊東拓朗 (東北大・植物園)、井鷲裕司 (京大・農・院) 局所環境のちがいがハイマツ—キタゴヨウの種間交雑にもたらす影響

日比野真子 (岐大・自然)、須山知香 (岐大・教)、川窪伸光 (岐大・応) 日本産ネコノメソウ属の花粉/胚珠 (PO 比) が語ること

平山楽 (神戸大・人間)、石井博 (富山大・理)、田中健太 (筑波大・山岳)、丑丸敦史 (神戸大・人間) 花や送粉者の機能形質の多様性は送粉ネットワーク

- ク構造を規定するか？
- 星野佑介 (学芸大・院・連合)、牧雅之 (東北大・植物園)、堂園いくみ (学芸大・環境) 花形態の変異に伴う自殖型・他殖型の違いが花粉のパフォーマンスに及ぼす影響
- 前田裕 (日大院・総合基・相関理)、井上みずき、松木優香子、内山由士、齋藤将悟 (日大・文理) 野生植物ヤマノイモの地域・年度によるウイルス感染実
- 丸山真穂、戸田真一 (新潟大・院・自然)、宮本俊彦 (新潟県立高田南城高校)、石崎智美 (新潟大・院・自然) ギフチョウ集団ごとのカンアオイ利用可能性のちがい
- 守屋健太 (京大・院理/京大・生態研)、嶋田知生 (京大・院理) 気孔のないコケ植物ゼニゴケにおける気孔形成因子の役割は何か？
- 横山俊哉 (神奈川大・院・理学)、渡辺明、浅岡真理子、西谷和彦 (神奈川大・理学) 寄生植物アメリカナシカズラの成長過程依存的な光応答最適化戦略
- 吉田直史、本庄三恵、工藤洋 (京大・生態研) ウイルス感染によるハクサンハタザオの低温応答性の変化
- 大崎晴菜 (東京都立大/学振 PD)、山尾僚 (京都大) エゾノギシギシを利用するハムシ 2 種のニッチ分割機構の解明
- 小澤理香 (京都大・生態研)、塩尻かおり、大田航、大野裕香、藤田涼平、中尾拓磨 (龍谷大・農)、白井雄、大門高明 (京都大・農)、田中萌菜、松井健二 (山口大・創成科学)、高林純示 (京都大・生態研) チョウ目幼虫の絹糸腺由来の酵素は植物の防衛機能を抑制しているか
- 柿嶋聡 (昭和大・富士山研)、末吉昌宏 (森林総研)、大野順一 (静岡県)、杉江喜寿 (山口県博)、山根文人 (山口県)、奥山雄大 (科博・植物園) オオマムシグサ種群の種分化における送粉者シフト
- Biva Aryal (京大・生態研/トリプバン大)、本庄三恵 (京大・生態研)、永野惇 (龍谷大・農/慶応大・先端生命研)、○工藤洋 (京大・生態研) 積雪の有無が植物葉面微生物群集に与える効果
- 高木健太郎 (筑波大・生物)、大橋一晴 (筑波大・生命環境系) 送粉者の定花性は記憶の呼び出しコストと同種間移動コストのバランスで決まる
- 高野 (竹中) 宏平 (長野県環保研)、高濱謙太郎、小川直也 (名古屋大・全技セ)、片山昇 (小樽商大)、三宅崇 (岐阜大・教育) クワズイモ (*Alocasia odora*: サトイモ科) の花蜜に含まれる化合物: 糖とアミノ酸に注目して
- 武田和也、川北篤 (東大・理・植物園) Raspberry Pi ベース動画撮影装置を用いた小笠原諸島における送粉者観察
- 大日野寿咲 (学芸大・生物)、星野佑介 (学芸大・院・連合)、秋山巨樹・早田鴻允、○堂園いくみ (学芸大・環境) ウメバチソウ属の花の特性と繁殖様式
- 西垣維音、倉本宣 (明大・農) 東京都町田市の団地周辺や里山型公園の花とハナバチ
- 野村康之 (龍谷大・研究部)、下野嘉子 (京都大・院農)、永野惇 (龍谷大・農/慶応大・IAB)、今西純一 (大阪公立大・院農)、富永達 (京都大・院農) チガヤ 2 生態型の遺伝的多様性およびゲノムサイズの比較
- 樋口裕美子、望月昂、川北篤 (東大・理・植物園) カタクリの斑のカムフラージュ効果: 地理的変異と視覚モデルからの検討
- 松本哲也 (茨城大・院・理工)、柿嶋聡 (昭和大・富士山研)、小林禎樹 (兵庫県植物誌研究会)、前川奈々子 (岡山大・農)、多々納琴音 (岡山大・院・環境生命)、大野順一 (静岡県)、廣部宗 (岡山大・院・環境生命)、末吉昌宏 (森林総研)、狩山俊悟 (倉敷自然史博友の会)、宮崎祐子 (岡山大・院・環境生命) キノコバエ送粉者の花への選好性は日本産テンナンショウ属の種同定に応用できるか？
- 村中智明 (名古屋大・農) 鹿兒島のアオウキクサは 3 タイプの開花フェノロジーを示す
- 渡部俊太郎 (鹿兒島大学)、田代優衣 (鹿兒島大学)、船津若菜、相場慎一郎 (北海道大学) 南九州におけるナツツバキ属 2 種の標高分布パターンとその形成要因
- 永光輝義 (森林総研) Common-garden study of introgression at loci associated with traits adaptive to coastal environment from *Quercus dentata* into *Q. mongolica* var. *crispula*

ポスター賞受賞者

<種生物学会ポスター賞>

松浦匠 (信大院・総合理工)
砂川勇太 (東大・理・植物園)
柴田あかり (京大・生態/北大・地球環境)

<河野昭一ポスター賞 ※>

小杉那緒 (弘前大・農生)
※ 筆頭発表者を学部学生と大学院生 (修士) に限定した奨励的ポスター賞です。

事務局からのお知らせ

電子メールアドレス更新のお願い——

種生物学会では、さまざまな情報を電子メールで配

事務局の連絡先は office@speciesbiology.org です

信しています。メッセージが届かない方は、電子メールアドレスが登録・更新されておりませんので、事務局までご連絡ください。

会計報告

種生物学会 2023年度 決算

期間: 2023年1月1日～12月31日

収入の部	2023年予算額	決算額
国内会員会費	1,600,000	1,847,466
片岡基金繰り入れ	0	0
著作権料	100,000	112,993
その他	20,000	55
小計	1,720,000	1,960,514
前年度繰越金	11,102,251	11,102,251
合計	12,822,251	13,062,765

収入その他(利息55)

支出の部	予算額	決算額
出版費	3,000,000	2,244,000
和文誌42号 和文誌43号 和文誌44号	3,000,000	2,244,000
事務費	350,000	257,097
発送費	200,000	137,192
冊子発送作業費	100,000	7,800
その他	50,000	112,105
ウェブサイト維持管理費	126,000	129,800
シンポジウム補助金	300,000	381,091
片岡奨励賞副賞	100,000	100,000
PSB論文賞副賞・郵送料	30,000	31,010
交通費	70,000	0
自然史学会連合分担金	20,000	20,000
日本分類学会連合分担金	10,000	10,000
男女共同参画連絡会分担金	10,000	10,000
予備費	20,000	0
小計	4,036,000	3,182,998
次期繰越金	8,786,251	9,879,767

会員数

(2024年9月30日現在)

個人会員	325
一般会員	272
学生会員	53

種生物学会 2024年 予算期間: 2024年1月1日～12月31日

収入の部	2024年予算額
国内会員会費	1,600,000
著作権料	100,000
その他	10,000
小計	1,710,000
前年度繰越金	9,879,767
合計	11,589,767

支出の部	2024年予算額
出版費	2,000,000
和文誌44号 和文誌45号	2,000,000
事務費	450,000
発送費	150,000
冊子発送作業費	50,000
和文誌編集業務	200,000
その他	50,000
ウェブサイト維持管理費	126,000
シンポジウム補助金	300,000
片岡奨励賞副賞	100,000
PSB論文賞副賞・郵送料	30,000
交通費	70,000
学会選挙費用	50,000
自然史学会連合分担金	0
日本分類学会連合分担金	10,000
男女共同参画連絡会分担金	10,000
予備費	20,000
小計	3,166,000
次期繰越金	8,423,767
合計	11,589,767

(会計幹事 下野 嘉子)

種生物学会ニュースレター 第57号

発行 種生物学会
<http://www.speciesbiology.org/>編集 下野 嘉子 (会計幹事)
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学 農学研究科 種生物学会事務局

発行日 2024年10月1日